

(様式1)

令和5年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(富塚小) 学校運営協議会長

＜本年度の目標＞

学校運営協議会では子供たちや学校の問題点を明確に示してもらい、保護者や学校や地域がどんな協力をして解決していくか協議していきたい。そのために、教育活動の様子を自分の目で見て、今年度の協議会で具体的な意見を出せるようにしたい。

＜評価項目1＞ 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- ・学校から運営基本方針について説明を受け理解できた。また学校教育目標である「ともに輝く富塚の子の育成」についても理解できた。学校側が抱えている目標や問題などを共有できたことは良かった。
- ・校長から学校運営の基本方針について分かりやすい説明があり、理解することができた。タブレット学習について実際の進み具合の説明があり、熟議するにあたり、立場が違う様々な意見の交換ができた。

＜評価項目2＞ 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

- ・学校の教育目標と学校支援活動とのつながりを意識して、協議会で熟議をかさねることができた。登校時の見守り活動について熟議の中で具体策が出るなど一定の成果が出たが、もっと幅広く周知することが必要だと感じた。
- ・教育活動の充実につながる活動について熟議、理解できた。「相手の心を感じる」「振り返りながら考える」「目標を立てて行動する」など富塚小学校の目指す子供の姿に対してピアサポートやキャリア教育で進められているが、教職員の人数で対応できない部分を地域や保護者の見守り支援ボランティアの方で対応している。その方の探し方など各立場の方から意見をもらいながら熟議できた。

＜評価項目3＞ 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

- ・協議会の様子や内容を自治会理事会で説明することもあるが、問題や課題の解決に結びつくような十分な情報発信に至っていない。
- ・学習支援に来られるボランティアの方に直接口頭で発信をしたり、学期ごとに発行する「コミスクだより」にて情報を発信したりした。紙や文字で発信することも大事だが、直接伝えていくことが一番相手に伝わりやすい。ボランティアネットワークを広げていくことが大事だと認識した。

＜評価項目４＞ 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

- ・各委員の方の意見を伺った中で、各担当機関、団体がそれぞれの役割をさらに発信していく必要がある。また地域においても協議会の活動がより活発になるよう発信していく必要がある。
- ・子供たちや学校の問題点を保護者や学校や地域と協力できる体制になっている。今年度は教育活動の様子をたくさん見ることができ、協議も具体的になってきた。協議した内容の実施、結果までたどることが少なかったなので、来年度は「これができた」という明確なものがいくつもできるようにしたい。（特に現場の先生方と）